



1階 ラウンジ南側



アイハウス外観(AS保育室側)



1階 ラウンジ北側



2階 ゲストルーム (シングル)



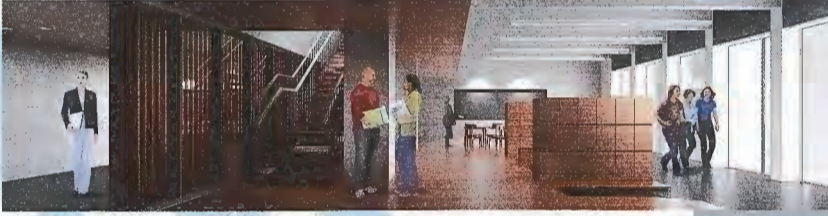
2. 3階 寮室



2. 3階 ミニラウンジ



2. 3階 リビング・ダイニング



1階 寮エントランス

## 新 長久手キャンパスに 国際交流会館完成!

2013年10月、長久手キャンパス内に国際交流会館が完成しました。これまで「アイハウス」の愛称で親しまれてきた名古屋市名東区の国際交流会館に代わり、さらに多くの外国人留学生により快適な生活の場を提供し、本学学生、教職員および地域社会に開かれた新しい「アイハウス」となるべく生まれ変わりました。

新国際交流会館は、長久手キャンパスの北側に位置し、3階建てで、延べ床面積は約3500㎡です。1階には、セミナー室3室と最大105畳にもなる和室のほか、64席を有するラウンジなどの研修施設があり、本学の学生および教職員、エクステンションセンター開設講座の受講者が利用できます。また、2階にゲストルーム3室を備え、本学を訪れる国内外からのゲストや留学生の家族、教職員などが宿泊できるようになっています。

2、3階は宿泊施設となっており、外国人留学生および日本人チューターが生活する53室の居室があります。その他にキッチン、リビング・ダイニング、スタディールームなどの共同利用施設があります。



アイハウス外観

当館はイメージです。実際の仕様は異なる場合があります。

- 2・3階 ●寮室**  
留学生の寮室が2階に29室、3階に24室、計53室あります。それぞれの部屋には、ベッド、机・椅子、冷蔵庫、エアコン、タピオセット、インターネット回線などが完備されています。
- キッチン  
冷蔵庫・電子レンジ・炊飯器・トースターなどの充実した電化製品を活用し、調理することができます。
  - リビング・ダイニング  
2階に30席、3階に24席設けられたリビング・ダイニングは、ナラの無垢材を使用した温かみのあるテーブルが特徴的です。テレビ前にはソファが配置され、リラックスできる空間となっています。
  - ミニラウンジ  
2階に2か所、3階に1か所あり、留学生が気軽に利用できます。

**3階 ●スタディールーム**  
自学習用のスタディールームへは、留学生が各自のパソコンを持ち込んで勉強することも可能です。

**2階 ●ゲストルーム**  
ツインの「ゲストルームT」1室と、シングルの「ゲストルームS」が2室あり、本学を訪れる国内外からのゲストや留学生の家族、教職員などが利用できます。



**1階 ●エントランス**  
開放時間は午前9時から午後6時です。2、3階の宿泊施設には留学生やゲスト以外、アクセスできません。

- 事務室  
アイハウス管理人や事務スタッフ、留学生のサポートや1階研修施設の利用申請受付などの業務を行なっています。
- 調理室  
講師用を含む5台の調理台が設置されています。
- セミナー室 1~3  
(セミナー室1~24席、セミナー室2~30席、セミナー室3~18席)  
セミナー室2には、120型のワイドスクリーンが設置されているほか、クッション性の高い床材を使用しているため、運動系のエクステンションセンター開設講座などでも利用できます。
- セミナー室 (和室) 1~4  
和室1と4が各24.5畳、和室2、3が各28畳となっており、それぞれの部屋の仕切りを開放すると、最大105畳の大空間となります。また、セミナー室 (和室) は、研修参加者の宿泊室としても利用できます。
- 茶室  
慶から中庭の風景を眺めつつ、格別な茶室を楽しむことができます。留学生が日本文化を知るための授業などで利用します。

### 2013年留学生別科 秋学期入学生

SAKO, Cristine Akemiさん (ブラジル)

秦 陽さん (中国)

邢 昭さん (中国)

鄭 青さん (中国)

徐 光遠さん (中国)

宋 小琳さん (中国)

FLORANTE, Andrea  
Melissa De Leon さん (フィリピン)

許 尚葉さん (韓国)

艾 野さん (中国)

金 多慧さん (韓国)

GRAEWERT, Laura Johanna さん (ドイツ)

PHAM, Anh Le Phuong さん (ベトナム)

王 潔さん (中国)

劉 悦さん (中国)

趙 夢丹さん (中国)

趙 悠藍さん (中国)

李 知彦さん (韓国)

MAN, Siobhan Chi Tung さん (イギリス)

金多慧さん (韓国)

GRAEWERT, Laura Johanna さん (ドイツ)

PHAM, Anh Le Phuong さん (ベトナム)

王 潔さん (中国)

劉 悦さん (中国)

趙 夢丹さん (中国)

趙 悠藍さん (中国)

李 知彦さん (韓国)

MAN, Siobhan Chi Tung さん (イギリス)

### 2013年 留学生別科入学式

2013年留学生別科入学式が8月30日(金)午前11時より、長久手キャンパス11号棟ミニシアターで行われました。今年は8か国から15名の新しい留学生を迎え入れ、継続生4名と合わせ合計19名の学期開始となりました。

厳粛な雰囲気の中で入学式は始まり、石田好江副学長からの入学許可の後、新入生を代表して韓国の木浦大学からの交換留学生、金多慧さんがスピーチをし、これからの日本での留学生活に対する期待と抱負を日本語で語りました。入学式終了後には記念撮影とティーパーティーが行われ、新入生は留学生別科の教員や日本人学生との交流を楽しんでいました。

留学生別科では9月2日から秋学期が始まり、留学生たちは日本語や日本文化について学んでいます。新しい国際交流会館が長久手キャンパス内に竣工し、キャンパス内で国際交流活動を行う環境も整ってきました。留学生たちは日本人学生との交流を楽しみにしていますので、キャンパスで留学生を見かけたら気軽に声をかけてあげてください。

海外留学への憧れは高校生の頃から強くなっていったのを感じています。小さい頃から英語はずっと身近な存在で、大好きでした。他の授業は居眠りをしてしまうのに、ALT (Assistant Language Teacher) の先生が来る授業だけはいつも目が冴えていて、楽しかったのを覚えています。衝撃的だったのは、仲よかった高校の友人が高校2年の夏、退学してアメリカの高校へ転校してしまっただけのことです。そんな選択が人生において、実現可能であることを知り、私も海外に留学をしたいという思いが強まりました。

森下さんは交換留学をされる前に、米国NPO インターンシッププログラムに参加されましたが、インターンシップ先での体験などを教えてください。

インターンシップ先は、メリーランド州のFarmland Elementary Schoolという、国際ナショナルスクールでした。そこで両親の転勤の都合で日本から来たばかりで英語が分からず、周りの人たちの会話が理解できずに困っている子供たちのサポートをしました。5歳くらいの女の子だったでしょう。現地先生方から、名前を呼んでも返事もせず、彼女の意思がわからないから助けて、とお願いがありました。なるべく彼女に寄り添って、何日も話しかけた成果が実ったのか、その女の子と会話を交わすようになりました。どうやら、英語が分かるようになったのか、どのように返事をしたらいいか困っていたとのことでした。その女の子は自分の悩みを誰かに言えたせい、少しづつ心を開くようになりました。その子との出会いがとても印象的でした。自分だけがそう思っているのかもしれないけど、誰かのために何かができたとすることに大きな喜びを感じました。教育現場で働きたい、そう強く思うきっかけをその女の子はわたしに与えてくれました。

### 活躍する卒業生

森下 佳南さん  
2004年度 コミュニケーション学部 言語コミュニケーション学科 (当時) 卒業  
2003年2月米国 NPO インターンシップ研修参加、2003年8月~12月ウエスト・バージニア大学交換留学生

このコーナーでは、在学中に交換留学生として海外の交流提携校に派遣された卒業生を紹介しています。今回ご紹介するのは、2003年2月から1か月間 (当時:2年生) 国際交流センター開設科目である「米国NPO インターンシッププログラム」に参加し、2003年8月からはアメリカのウエスト・バージニア大学へ半年間 (当時:3年生) の交換留学をされた森下佳南さんです。

森下さんは本学卒業後に中学校の教員として勤務された経験を生かし、国際交流基金のプログラムを通してアメリカで日本語教育を行ったり、日本文化の紹介をされたりしていました。その後、アメリカの大学院に進学し修士号を修められました。そんな森下さんが国際交流センター開設科目である「米国NPO インターンシッププログラム」のコーディネーターとして、本学に戻って来てくださいました!

**1 海外留学に行こうとしたきっかけは?**  
海外留学への憧れは高校生の頃から強くなっていったのを感じています。小さい頃から英語はずっと身近な存在で、大好きでした。他の授業は居眠りをしてしまうのに、ALT (Assistant Language Teacher) の先生が来る授業だけはいつも目が冴えていて、楽しかったのを覚えています。衝撃的だったのは、仲よかった高校の友人が高校2年の夏、退学してアメリカの高校へ転校してしまっただけのことです。そんな選択が人生において、実現可能であることを知り、私も海外に留学をしたいという思いが強まりました。

**2 森下さんは交換留学をされる前に、米国NPO インターンシッププログラムに参加されましたが、インターンシップ先での体験などを教えてください。**  
インターンシップ先は、メリーランド州のFarmland Elementary Schoolという、国際ナショナルスクールでした。そこで両親の転勤の都合で日本から来たばかりで英語が分からず、周りの人たちの会話が理解できずに困っている子供たちのサポートをしました。5歳くらいの女の子だったでしょう。現地先生方から、名前を呼んでも返事もせず、彼女の意思がわからないから助けて、とお願いがありました。なるべく彼女に寄り添って、何日も話しかけた成果が実ったのか、その女の子と会話を交わすようになりました。どうやら、英語が分かるようになったのか、どのように返事をしたらいいか困っていたとのことでした。その女の子は自分の悩みを誰かに言えたせい、少しづつ心を開くようになりました。その子との出会いがとても印象的でした。自分だけがそう思っているのかもしれないけど、誰かのために何かができたとすることに大きな喜びを感じました。教育現場で働きたい、そう強く思うきっかけをその女の子はわたしに与えてくれました。

**3 交換留学中の経験で印象に残っている経験や留学を通じて得たことをお聞かせください。**  
交換留学を通して、一番得たものは、友人と机を並べ、同じ教室で同じ授業を受けた経験は、非常に刺激的で、彼らの勉強に対する姿勢は日本人も大いに見習わなければならないと感じました。一生懸命に勉強したつもりでも、なかなか良い成績が取れず、悔し涙を流したことも良い思い出です。その悔しさが後に、日本に帰ってからも英語を勉強し続ける原動力となりました。

**4 大学在学中に語学力を伸ばすために努力されたことや、おすすめの勉強法があれば教えてください。**  
とにかく、大学在学中の目標は交換留学に行くことだったので、1年生から3年生はTOEFLの勉強を中心に行っていました。受験勉強のように、ひたすら問題集を解いたり、通学中は英語の音声を聞くためにラジオ放送を録音したものを聞いたりしていました。英語をなるべく使えるようにと、外国人客がよく来店するレストランでアルバイトをしました。

**5 アメリカではどのようなお仕事をされていたか? また、アメリカの大学院生活はいかがでしたか?**  
大学卒業後、日本で就職をし、それから国際交流基金日米センター主催のプログラムを通して Japan Outreach Initiative Coordinator (JOI) として、アメリカのミズーリ州で草の根日米交流の促進活動をしていました。2年間、現地の小・中学校、高校、大学、図書館、YMCA、日米協会を訪れ、日本文化を紹介するプログラムを現地の人と一緒に作り、展開をする毎日でした。もちろん、なかなか良い成績が取れず、悔し涙を流したことも良い思い出です。その悔しさが後に、日本に帰ってからも英語を勉強し続ける原動力となりました。

**6 最後に、在学生へのメッセージと、今後の目標をお聞かせください。**  
夢があるなら、まず目標をもち、それを達成させるための計画を立ててください。そうすれば、きっと夢への道は開けると信じています。今度は、自分がそんな夢をみる学生さんたちのお手伝いをすることが私の目標です。

留学生とのホームパーティー

